

# 元気

## まち物語

2013.1

### コルトー音楽祭実行委員会



「私はこれまで世界の美しい海や山を見てきたが、こんなに美しい夢のような島は見たことがない」。フランスの世界的ピアニスト、アルフレッド・コルトー（1877-1962）が、1952年の来日公演の際に川棚の宿に泊まり、響灘に浮かぶ厚島に魅せられて発した言葉です。島に永住したいとまで語りながら、渡ることなく永眠した彼の言葉に込められた思いを引き継いでいるのが、「コルトー音楽祭実行委員会」の皆さんです。

### 小さな町のホールに大きなゲスト

平成22年、同会は川棚温泉交流センター（川棚の杜・コルトーホール）のオープンと併せて発足。「市内の音楽好きが集まりました。コルトーの名前を冠したホールへの期待、そしてコルトーの物語への関心が人を集めたんです」と話し

てくれたのは、会長の友永次郎さんです。

毎年開催しているコルトー音楽祭やコンサートには、小さな町では考えられない著名な奏者が集まります。大都市では当たり前の催しも、小さな町でとなると途端に輝きを増すのは、力を尽くす会の方々の姿が見えるから。会員が日々フランスとのネットワークづくりに奔走した成果は、川棚の魅力向上の大きな力となっています。

「ただ、ホールの音響はどうしても改善しなければいけない。長い目で少しずつ手を加えていき、皆さんの意見を聞きながらホールを育てていきたい」とも会長は話してくれました。

### 音楽を通じておもてなしを

コルトーが川棚にほれ込んだ理由は、自然の美しさと、当時の人のおもてなしの気持ち。コルトーの意志を継ぐ会員は、市民にも観光客にも、川棚で楽しい時間を過ごしてほしいと願っています。

会員はこう語ります。「ここには優しい自然美やおいしい食べ物があります。そこに気軽に楽しめ

る音楽が加われば、自然に人との交流が生まれて、まちも元気になると思うんですよ」。とつつきづらそうなクラシックのコンサートも、解説を加えながら行うなど、観客への配慮を忘れません。コルトーに関する貴重な資料を集めたという夢もあります。

川棚の特色である自然、食、音楽、そして地域の人。これらがうまくハーモニーを奏で始めることを、記念碑となったコルトーは静かに願っていることでしょう。

### ♪コルトーホールの音響をより良いものに

ホールの音響設備を整え、さらに質の高い情報を発信していくため、募金活動を継続しています。実行委員会（☎774-3855）

- ①実行委員会の皆さん。後ろに見える「コルトーホール」からこの広場が見渡せる。
- ②友永会長。目線の先はコルトーが憧れた厚島。
- ③ピアノの音色にコルトーへの思いが重なる。
- ④フランスオペラ・レクチャーコンサート。広過ぎないホールが観客との一体感を生む。
- ⑤1952年、川棚を訪れたコルトー（中央）。（旧川棚観光ホテル提供）

